

大阪湾における大気・海面の二酸化炭素の変動 Changes in Carbon dioxide concentration in the air and surface seawater of Osaka Bay

藤井 智康^{1*}
Tomoyasu Fujii^{1*}

¹ 奈良教育大学
¹Nara University of Education

海洋の中でも陸域からの人為起源の栄養塩や有機物が豊富に流入する沿岸海域では、貧栄養の外海に比べて光合成が盛んであるため、一次生産が大きく、大気CO₂の大きな吸収源となっている可能性がある。最近になって欧米で大陸棚や沿岸海域におけるCO₂の挙動に関する研究が行われるようになってきた。しかしながら、日本の沿岸海域（東京湾・伊勢湾・大阪湾など）におけるCO₂の空間分布や時間変動および吸収・放出量に関するデータはきわめて乏しい。これまでの大阪湾での我々の研究（藤井ら，2010；藤井ら，2011）において、海水中のCO₂の挙動と風の吹送の影響や貧酸素水塊との関連性については明らかにされつつあるが、短期変動の激しい沿岸海域における長期的なCO₂の挙動については未だ明らかにされていない。本研究では沿岸海域の大気と海面のCO₂の短期変動（日から月スケール）について明らかにしたことを報告する。

キーワード: 二酸化炭素, 貧酸素水塊, 大阪湾
Keywords: Carbon dioxide concentration, anoxic water mass, Osaka Bay